



IOP
NEWSLETTER
No. 2

公益財団法人
東洋哲学研究所

目次

● 第 30 回学術大会-----	2-3
● 法華経展-----	4-5
● 連続公開講演会-----	6-8
● 文明間・宗教間対話セミナー-----	9
● 「社会と宗教」研究会-----	10
● 講演会-----	11-15
● 法華経写本シリーズ-----	16-17
● 国際学術交流-----	18
● 出版物-----	19-21

「IOP NEWSLETTER」No.2 では、公益財団法人・東洋哲学研究所が、2015 年に推進してきた「研究・調査」「国際学術交流」「研究成果公開」の各事業に関するニュースやトピックスを紹介します。※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです

第30回学術大会

東洋哲学研究所の第30回学術大会が、2015年3月21、22日に開催された(会場:21日=創価大学/22日=東洋哲学研究所)。

学術大会は、第1回の開催以来、国内外の研究者・委嘱研究者らが研究成果を発表する場として、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和、人権、環境など「地球文明の創出」を目的として、毎年1回行ってきた。

今回は、第30回の節目の大会として、マレーシア・マラヤ大学より、ライハナ・アブドゥーラ博士(人文学研究クラスター副院長)とファリダ・ノール博士(文明間対話センター所長)を招聘。21日午後、「文明間対話シンポジウム——仏教とイスラームの相互理解に向けて」を行った。



ファリダ・ノール博士(左)とライハナ・アブドゥーラ博士

東洋哲学研究所は2012年10月、マラヤ大学文明間対話センターとイスラーム文化圏初の共同シンポジウム「文明間対話——平和・共生・持続可能性」を首都クアラルンプールの同大学で実施。マハティール元首相の特別講演をはじめ、研究員による論考の発表がなされた。さらに、両機関の学術交流協定が締結された。

2014年2月には、「法華経——平和と共生のメッセージ」展が、クアラルンプールのマレーシア創価学会総合文化センターで開催された。会期中、東洋哲学研究所と文明間対話センター、マレーシア首相府国家統一・統合局、マレーシア創価学会の共催による「平和と共生——イスラームと仏教の対話」会議が行われた。

こうした交流を重ねてきた両機関によるシンポジウムでは、ライハナ博士が「ジェンターの平等、イスラーム、法」を、ファリダ博士が「『法華経』『薬草喩品』の言語」をテーマに大要、以下のような講演を行った。

〈ライハナ・アブドゥーラ博士〉

仏教が男女平等の思想を説くように、イスラームでも聖典『クルアーン』において男女平等が説かれています。特に教育では知識の追求を義務とし、女性も学ぶことを教えます。しかしイスラーム圏では、男性に大きな権利があり、女性が劣ると考える風潮があり、未だ多くの国で、女性は経済的・社会的弱者に追いやられています。現代の国際社会では、女性への差別を撤廃し、基本的な人権と経済的、社会的立場の保障が求められ、この流れは、マレーシアにおけるイスラーム家族法に反映され始めています。

私は、『クルアーン』に基づいた男女平等を社会に定着させ、差別を無くしていくことについて、さらに考察を続けたいと思っています。

〈ファリダ・ノール博士〉

『法華経』は、大乘仏教の中で最も重要な経典として、多くの人々に影響を与えてきた教えです。私が注目した「薬草喩品」のなかでは、反復表現の多用や、直喩・比喩、また誇張表現が使用されています。さらに、色彩を与える形容詞や、物語性を持った話の進め方をしています。私はいかなる存在であっても、その人を排除せずに進むことが共存の意味するものであると思います。そういった意味で、今回のシンポジウムの開催は非常に実験的な試みなのです。

シンポジウムでは、このほか、マラヤ大学医学部副学部長で東洋哲学研究所海外研究員のポイ・チョンメイン博士が「医学におけるイスラームと仏教間の対話」、栗原淑江主任研究員が「仏教における男女平等観——ブッダの時代」、山崎達也研究員が「イスラーム哲学における調和の問題——ファーラービー『有徳都市』の見解を中心に——」をテーマに発表し、質疑応答が行われた。



ポイ・チョンメイン博士

シンポジウムに先立つ 21 日午前には、研究発表大会として、以下の発表を行った。

- ・宗教教団の信仰継承の現代的課題
(平良直研究員)
- ・ニーチェ的生の「歴史の実存性」と牧口価値論
(尾熊治郎委嘱研究員)
- ・共存から紛争へ—オスマン帝国における共存形態の変容と崩壊—
(岩木秀樹委嘱研究員)
- ・イスラームと仏教における社会への善行
(フランチェスカ・M・コッラオ海外研究員)

22 日には、以下の発表を行った。

- ・能狂言を描いた近世の画家たち——
狂言の役者と演技はどう描かれたか
(藤岡道子委嘱研究員)
- ・「十如是」考
(前川健一研究員)
- ・新たな宇宙論の展開を目指して——中論からの考察
(青木宏委嘱研究員)
- ・日蓮の依正不二観と森の保全試論
(平塚彰委嘱研究員、若江賢三委嘱研究員)
- ・いじめ連鎖防止と公平観
(戸田有一委嘱研究員)

法

華

經

展

—平和と共生のメッセージ—

「法華經——平和と共生のメッセージ」展は、法華經の歴史と理念を紹介する展示として、2006年に東洋哲学研究所が企画・制作。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面協力により、貴重な写本資料や仏教芸術を、複製やパネルで紹介。世界12カ国・地域で開催され、50万人を超える来場者が訪れている。

台湾 彰化展



台湾で初の巡回展となる「法華經展」は1月25日、台湾SGI（創価学会インタナショナル）の彰化文化会館で開かれた。展示会では、敦煌莫高窟の壁画パネルや貴重な写本資料の複製をはじめ、創価学会「法華經写本シリーズ」などを公開した。

開幕に合わせ、初の海外出版となる『ガイドブック 法華經展—平和と共生のメッセージ』中国語版（繁体字）が創価文教基金会の翻訳・編集により発刊された。同展は4月19日まで開催された。

台湾 高雄展



台湾巡回展の2都市目となる高雄展（5月2日～7月19日）は、台湾SGIの鳳山文化会館で開かれた。

開幕式典では、高雄師範大学の呉連賞学長が、世界が直面する「文明の衝突」の危機に言及し「衝突を生み出す人の心を調和させ、東西の世界を融合させるために法華經の精神が重要なのです」と述べた。

そして呉学長とともに、著名な書家で台湾師範大学美術学部の洪根深教授、高雄師範大学成人教育研究所の余嬪所長、高雄市政府民政局の曾姿雯局長、高雄第一科技大学マーケティング・流通管理学部の趙沛学部長らがテープカットを行った。また、洪教授が認めた法華經28品と開結の書が贈呈された。

中国 香港展



2006年11月以来2度目となる香港展は5月3日、香港 SGI の香港文化会館で開幕した（5月25日まで）。

今回は、中国の国学大師と讃えられ、香港中文大学終身主任教授の饒宗頤博士による法華経の文の「如蓮華在水」「慧光照無量寿命無数劫」の書等も特別出品された。饒博士は同展の意義を「これらは考古学的文物であるにとどまらず、数え切れぬ人々の智慧と信仰、そして希望の結集であり、その断片一つ一つに残された文字に、人間の生命力が表現されていると感じられてなりません」と述べている。

開幕式典では、饒博士をはじめ香港特別行政区政府民政事務局の許曉暉副局長、香港大学饒宗頤学術館の李焯芬館長、東洋哲学研究所の川田所長、香港 SGI の呉楚焜理事長らがテープカット。許副局長が「展示を通して仏教学の研究等が進み、社会の調和と各家庭の和楽の促進を望みます」と祝福。李館長は「法華経の平和と共生のメッセージは、人と人、国と国の関係においても有用です」と挨拶した。式典の様子は中国語有力紙「大公报」で報道された。期間中、1万6千人が観賞に訪れた。

台湾 桃園展



台湾巡回展3都市目の「法華経展」は、台湾 SGI の桃園文化会館で開催。同展は不戦と平和への誓いを込め、第2次世界大戦終戦から70年となる8月15日に開幕した。

開幕式典では、桃園市の鄭文燦市長、同市文化局の莊秀美局長、台湾博物館の陳済民館長、台北芸術大学の林保堯名誉教授、中国文化大学の陳清香教授らがテープカット。鄭市長は「東洋哲学研究所の創立者・池田大作 SGI 会長が収集を続け、その研究成果を公開した「法華経展」は、人類文明の努力の証です。戦争を経験したアジアの人々にとって、平和と共生のメッセージは何よりも重要です」と述べた。林名誉教授は、「法華経展」が台湾各地を巡回してきた喜びを語り、「このような貴重な遺産を、若い学生たちとともに学んでいきたい」と望んだ。

式典の様子は、有力紙「中国時報」「台湾導報」が報道した。同展は11月8日まで開催され、期間中、5万4千人を超える観賞者が訪れた。

連続公開講演会

「地球文明への道」

東洋哲学研究所は、2014年の連続公開講演会において、統一テーマ「地球文明への道」を掲げ、現代世界が抱える諸問題を、「地球環境問題」「政治・社会・経済の問題群」「人間の精神性の危機」の三つに大別。それぞれに対して、「大自然との共生」「人間の平和共存」、そして「人間の精神の変革」を打ち立てゆく方途を見出す試みを行った。この流れをさらに進めるため、2015年の連続公開講演会の統一テーマを引き続き「地球文明への道」とした。全ての人に尊重される普遍的価値を広げ、「地球文明への道」を開きゆくために、同テーマの第2シリーズとして、9・10月に5名の有識者による連続公開講演会を実施した。

<9月8日>

講師：稲垣良典氏（九州大学名誉教授）

テーマ：知恵と自己——仏教とキリスト教との対話

会場：アクロス福岡（福岡市）



稲垣氏は、東京大学を卒業後、アメリカ・カトリック大学大学院で博士号を取得。南山大学、九州大学教授等を歴任する。これまで、中世神学のトマス・アキナスに関する著作等の発表や『神学大全』の翻訳を行っている。

講演では、「知恵」と「自己」の関係性に触れ、全ての人間は幸福を望み、それを最終的な目標として生きていると言及。幸福の実現には、それを望むだけでなく、人間にとっての真の幸福をより深く探求し自己を知る必要性について論じた。また、「知ることをすべて科学的に捉えることはできません。知識から知恵へと変化させていくことが、一面化した知識を変えることなのです。知恵はラテン語で味わうという意味があります。知識を磨いて深い真理を味わうことが、知恵の本来の意味なのです」とし、この「知る場所、こそが宗教であると指摘した。

<9月17日>

講師：山脇直司氏

(東京大学名誉教授、星槎大学共生科学部学部長)

テーマ：宗教の公共哲学

——諸宗教間の対話のために

会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

(東京・新宿区)



山脇氏は一橋大学を卒業後、ドイツ・ミュンヘン大学で哲学博士号を取得。上智大学、東京大学等で教鞭を執った。近年注目を集める公共哲学の第一人者であり、社会思想史を専門とする。

講演では『公共哲学』とは、より良き、公正な社会を追求しつつ、現下で起こっている公共的諸問題を市民と共に論考するという実践的学問のことです」と述べ、政治や経済、教育、宗教などいたる所で公共的な問題が考えられなければならないとした。「宗教の公共哲学」に関しては、「信仰は公共的な世界のなかの営為として考えなければなりません。すなわち、身内と他者を結びつけるのが、宗教という公共哲学です。そして、他宗教の差異を認め、不平等の社会に公共善とより良き価値を創出するものでなければなりません」と語った。

<9月29日>

講師：伊東俊太郎氏 (国際比較文明学会終身名誉会長、
東京大学名誉教授)

テーマ：文明の転換期——人類の過去と未来

会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

(東京・新宿区)



伊東氏は、東京大学卒業後、米ウィスコンシン大学で科学史の Ph.D を取得。東京大学、コペンハーゲン大学、チュービンゲン大学などで教鞭を執り、国際比較文明学会会長、日本比較文明学会会長、日本科学史学会会長等を歴任している。

講演では、人類が5つの文明の転換期を経て、現代は第6の大きな転換期である「環境革命」の時代に突入していると言及。「こうした人類史を見通した時に求められるのは、人類が向かうべき進路を考えることです。それには単なる知識だけでなく、人類の生存を確保する英知が必要です」と強調。「自然と共生し、持続的に発展するという生き方に変わらなければなりません。私は、来るべき世代の方々に、平和で安全な世界を渡さなければならぬと強く思っています」と訴えた。

<10月15日>

講師：石神豊氏（創価大学教授、東洋哲学研究所主任研究員）

テーマ：21世紀を築く力——ソクラテス・カントの英知に学ぶ

会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

（東京・新宿区）



石神氏は、哲学・倫理学を専門とし、創価大学では文学部学部長などを歴任。東洋哲学研究所の主任研究員を務め、「文明論プロジェクト」の中心として、トインビー研究・比較文明研究などをリードしている。

講演では、混沌とした21世紀において、人間がいかに生きるべきかが問われていることに触れ、「ソクラテスとカントは、物事の見方を転換させ、内なる自分に迫ろうとしました。そして、能動的な態度で考えることの大切さを訴えてきました。人間の最大の能力は考えることであり、それは人間の尊厳に関わる行為です」とし、「考えることは人間を創る力であり、ソフトパワーであるのに対して、考えることを暴力などによって押さえつけることはハードパワーと言えるでしょう」と語った。

<10月29日>

講師：モンテ・カセム氏（立命館大学国際平和ミュージアム館長、同大学特命教授）

テーマ：いのち、芸術、科学技術
——その関係を物語るとすれば

会場：梅田スカイビル（大阪市）



モンテ・カセム氏は、スリランカ出身で、建築学・都市工学などを専門とし、東京大学大学院を修了。立命館アジア太平洋大学学長、立命館大学副総長等を歴任。国内の大学として初となる平和ミュージアムの館長に就任し、平和・教育や環境問題などに取り組んでいる。

講演では「人間はなぜ、いがみ合い、分裂をしていくのかと思うのです。なぜ、一緒に力を合わせて生きていけないのか」と言及。そして「私たちの地球の源となるいのちを大切にすることが、社会を変革し、平和を築く基本となるのです。私は、平和とは何かと問われた時、戦争が無いことではありませんと答えます。では何が平和かと言えば、それは、いのちを喜び、いのちを祝える社会が生まれることなのです」と語った。

文

明

間

・

宗

教

間

対

話

セ

ミ

ナ

ー

東洋哲学研究所は文明間・宗教間対話の一環として、「東方キリスト教レクチャー」「カトリック神学レクチャー」及び「イスラームレクチャー」を実施。研究所の研究者・委嘱研究員を対象として、各分野の研究者が以下の論考の発表を行った。

東方キリスト教レクチャー

2月17日

中西恭子氏（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

ニカイアからカルケドンへ 古代末期の東方におけるキリスト論論争と教会政治史

4月9日

大森正樹氏（南山大学名誉教授）

ヘシカズム論争の指し示すもの——グレゴリオス・パラマスと東方教会神学

6月9日

袴田玲氏（日本学術振興会特別研究員）

東方キリスト教における死生観

6月23日

今義博氏（山梨大学名誉教授）

偽ディオニュシオス・アレオパギテスについて

7月28日

土橋茂樹氏（中央大学教授）

東方キリスト教における霊性

カトリック神学レクチャー

9月1日

佐藤直子氏（上智大学中世思想研究所所長、同大学教授）

キリスト教中世における「信じる」ことと「知る」こと——アウグスティヌス「自由意志論」における神証明を中心に——

10月1日

岩本潤一氏（日本聖書協会翻訳部主任）

信仰の合理性——現代カトリシズムの公共性をめぐって——

10月27日

宮本久雄氏（東京純心大学教授）

根源悪的現象とその思想の超克に向けて

12月10日

芝元航平氏（上智大学非常勤講師）

トマス・アクィナスにおける神学と哲学

イスラームレクチャー

12月8日

東長靖氏（日本中東学会会長、京都大学大学院教授）

スーフィズムの諸相—ファナー説をてがかりに—

「社会と宗教」研究会

「社会と宗教」研究会では、思想・宗教・哲学など各分野の有識者を講師に招き、研究員対象の講演・ディスカッションを実施した。



5月15日

伊東 俊太郎氏（国際比較文明学会終身名誉会長、東京大学名誉教授）

「西田・ホワイトヘッド・プリゴジンをつなぐもの——『生成』の見地より」

5月20日

小島 毅氏（東京大学大学院教授）

「日本の朱子学・陽明学受容」



7月30日

山脇 直司氏（東京大学名誉教授、星槎大学学部長）

「『公共哲学とは何か』再考」

10月13日

岡野 治子氏（清泉女子大学元学長）

「キリスト教の女性観——その虚像と実像」



11月4日

小島 毅氏（東京大学大学院教授）

「朱子学の理気論・心性論」

講演会

文明間対話における女性と青年

- ◆講師：ライハナ・アブドゥーラ博士
(マラヤ大学人文学研究クラスタ副院長)
- ◆開催日：3月22日
- ◆会場：日本青年館 (東京・新宿区)

ライハナ博士は、イスラーム家族法、イスラーム法とジェンダー、イスラーム法と社会を専門分野として、マレーシアにおけるムスリム女性の法意識の向上に関わる活動などを行う。イスラーム法弁護士資格を有し、マラヤ大学文明間対話センター所長等を歴任。同大学人文学研究クラスタ副院長、イスラーム研究学部シャリーア法学科准教授を務める。

博士は、東洋哲学研究所と同センターとの共同シンポジウム「文明間対話——平和・共生・持続可能性」の開催（2012年10月）をはじめ交流推進に尽力。特別公開講演会に先立つ東洋哲学研究所の学術大会では「ジェンダーの平等、イスラーム、法」をテーマに発表を行った。

講演会は「文明間対話における女性と青年」をテーマに行われた。博士は、現代世界において固定化されたイスラームのネガティブなイメージに言及。「イスラームの信仰や社会的情勢などについて、皆様がこれまでより良いイメージを



抱くことができれば、相互理解や共存の道が開かれていくものと思います」と語った。

さらに、ネガティブなイメージによって、イスラーム世界の女性や青年が抑圧されているとし、現状を変革しイスラーム文明が飛翔しゆくために、彼らが自分たちの考えを発信し、パラダイムの転換を図る必要があることを述べた。

博士は「歴史を振り返ると、植民地主義や紛争、テロ事件などによって平和と共存が困難であったことが分かります。だからこそ、調和を生み、問題の解決を図るために、相互の対話を促進する必要があります」と強調。「女性と青年がこうした対話の恩恵を受けるために、彼らが積極的に発言できる環境や社会を作らなければなりません」と訴えた。

また、質疑応答の場で、日本の青年への印象を聞かれると、「非常に積極的に国外に向けて活動している青年が多くいることは存じ上げています。しかし、その一方で、未来に何も希望が持てないと言っている青年たちもいます。社会の中で積極的に活動できるエネルギーな青年が、もっと育ててほしいと願っています」と期待を寄せた。



アル＝ファーティハ（開端）の翻訳と考察

◆講師：シハブ・ガネム博士、ワッダ・ガネム博士

◆開催日：6月6日

◆会場：創価大学（東京・八王子市）

シハブ・ガネム博士は、アラブ首長国連邦の著名な詩人、翻訳家。これまで、アラビア語、英語での詩集や、両言語の翻訳詩集など多数の著作を出版。また、東洋哲学研究所創立者の池田 SGI 会長の著書『君が世界を変えていく』『平和への闘争』のアラビア語版の監修・翻訳を行っている。

講演に同席した博士の子息であるワッダ・ガネム博士は、イスラームの聖典『クルアーン』の最初の章である「アル＝ファーティハ（開端）」の研究に取り組んでいる。

シハブ・ガネム博士は講演の中で、イスラームと仏教の共通点に言及。両宗教が共に生命の永遠性を説き、他の宗教と調和・共存する思想を有していることなどが述べられた。また、『クルアーン』に説かれる「ジハード（聖戦）」について、それはステレオタイプ化された外の敵と武器を持って戦うという理解ではなく内面的な闘いであり、自己に内在する悪を浄化することが本来の意味であると強調した。



シハブ・ガネム博士（中央）とワッダ・ガネム博士（右から2人目）

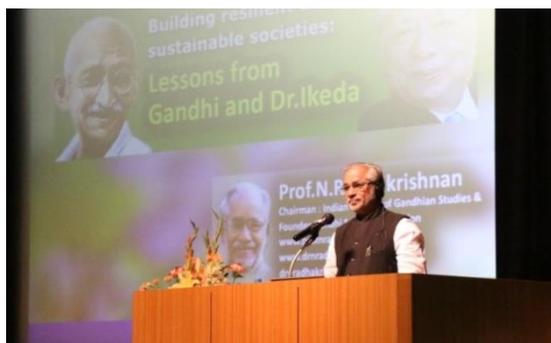
続いてワッダ・ガネム博士は、『クルアーン』の最重要の章と言われる「アル＝ファーティハ」の意義について発表を行った。

博士は「アル＝ファーティハ」は、全てを網羅した章であると述べ、その章にある通り、人間には常に迷いがあり悪の心があるが、アッラーの導きに従い智慧を委ねることで、正しい道に留まることができる」と語った。また、アッラーは、全てのものの創造主であり、人間に魂を与えた。ゆえに全ての人間には、神の魂が宿っていると考えられており、全ての人間には平等の権利があると述べた。

質疑応答では「イスラームにおける祈りには、自己の生命を見つめるという側面はあるのか」との問いに対し、イスラームの祈りは、アッラーに感謝し崇拝するという意味があり、それと同時に、欲に縛られた弱い自己と向き合い、アッラーに導きを乞うために行うものであると説明した。

回復力のある持続可能な社会へ

——ガンジーと池田 SGI 会長から学ぶ



◆講師：ニーラカンタ・ラダクリシュナン博士（ガンジー研究評議会議長）

◆開催日：6月18日

◆会場：仙台市福祉プラザ（宮城・仙台市）

ラダクリシュナン博士は、インドにおけるガンジー研究の第一人者である。マハトマ・ガンジー非暴力開発センター所長、非暴力デリー会議副会長等を歴任し、平和と国際的理解の促進の為に、ガンジー思想の啓蒙に尽力している。

博士は講演前、東日本大震災によって甚大な被害を受けた宮城県石巻市を訪問。地元のボランティアのメンバーから被災当時の状況の説明を受け、励ましを送った。

講演の冒頭、博士は想像を超える大震災の爪痕を目にした心情を語り、「私は、自然の猛威によって破壊された石巻を訪問しました。その光景を見て、全ての

人が悲しみに暮れ、涙を流しただろうと思いました。多くの方々が家を失い、命を失いました。大切な家族を、全てのものを失いました。大震災は、自然が隠していた爪を表し、脅威を見せた一瞬でした」と述べた。

そして、「そうした事に思いを馳せるなか、私は実感したのです。それは偉大なる東北の一人おひとりが、大いなる苦難に果敢に挑み、立ち上がり、正義の為に戦うという強靱な意思を持っているということです。そして、勇気を持って立ち向かったことを学びました」と語った。

博士はテーマである「回復力のある持続可能な社会へ——ガンジーと池田 SGI 会長から学ぶ」を通して、「ガンジーは、社会変革を成し遂げる為に立ち上がりました。池田会長もまた、社会変革をもたらすことのできる個人の能力を開花させる運動を展開されてきました」と紹介。戦争や殺戮が繰り返されてきた人類の歴史に対して、「池田会長はグローバルな世界市民という概念を提唱していますが、ガンジーもまた『世界は一つの家族』という思想を提唱しています。池田会長が説明されたのは人間の友愛です。そして、人種、民族に関係なく人類は一つであることを教えているのです」と訴えた。

「東洋の知恵」の魅力—— 中国学術界に広がる池田研究

- ◆講師：いりっしん 韋立新 博士(広東外語外貿大学教授)
- ◆開催日:8月6日
- ◆会場:TKP市ヶ谷カンファレンスセンター (東京・新宿区)



ジンナン
韋立新博士は、暨南大学において博士号(歴史学)を取得。中日仏教文化、日本仏教思想史を専門とし、広東外語外貿大学東亜研究センター主任教授、中華日本哲学会副会長、中国日本史学会古代史専門委員会会長等を務める。

また、同大学に発足した池田思想研究所の初代所長として、東洋哲学研究所創立者・池田 SGI 会長の思想・哲学に関する論考を発表するなど活動が続ける。

「『東洋の知恵』の魅力——中国学術界に広がる池田研究」をテーマにした講演会では、中国の学術界において SGI 会長の思想・哲学に関する研究やシンポジウムが盛んに行われてきた事実に言及。その理由の一つとして、周恩来が語った「水を飲むとき、井戸を掘った人を忘れてはならない」との言葉を通し、中日関

係が最も厳しい時代に SGI 会長が訴えた「中日国交正常化提言」への敬意があると同時に、その歴史的意義を重視しているためであると強調した。

博士は、SGI 会長の哲学が中国における調和社会の構築や文化建設をするうえで、手本とすべき哲学であり、中国が目指すべき最大の目標であると述べ、「池田思想が提唱するような生命の尊厳を守り、個人の人格や尊厳を尊重する思想は、今後必ず支持と賛同を得ていくに違いありません」と語った。

また SGI 会長が発するメッセージについて、「それは法華経の智慧であり、現代社会が直面するさまざまな問題群への解決を求める東洋の智慧の結晶である」とし、こうした潮流のなかで、中国学術界において池田思想研究が広がりを見せていると力説した。



現代における平和・融合・希望の哲学 ——池田SGI会長の法華経の智慧に関する対話



- ◆講師:カルロス・マヌエル・ルア院長
(サルバドル大学東洋学学院院長)
- ◆開催日:10月12日
- ◆会場:TKP市ヶ谷カンファレンスセンター (東京・新宿区)

カルロス・マヌエル・ルア院長は、サルバドル大学卒業後、アルゼンチン・カトリック大学にて修士号を取得（生命倫理学）。サルバドル大学イスマエル・キレス神父学院院長等を歴任する。

「現代における平和・融合・希望の哲学——池田SGI会長の法華経の智慧に関する対話」をテーマにした講演では、2014年9月に同大学で「法華経——平和と共生のメッセージ」展が開催されたことに触れ、「仏教の思想と深淵な教えに触れる貴重な機会でした。多くの言語で翻訳された法華経写本を観賞し、その流伝の歴史を辿ることができました」と感想を述べた。さらに、「法華経には、時代が移り変わっても失われない力が

あります。そして生命には、無限の可能性があり、仏性という最高の境涯があることを教えています。さらに、今いる場所で持てる力を発揮することを教えた経典なのです」と強調。自然の脅威などさまざまな人類的課題がある現代世界にあって、SGI会長は人間を根本としながら「法華経の智慧」によって諸問題を乗り越える道筋を示す存在であると語った。

最後に、「世界平和の実現といっても、それは一人ひとりの日常のなかの小さな努力から始まると思います。法華経の最も重要な精神は、私たちが人々の幸福のために具体的な行動を力強く促す点にあるのです」と指摘した。

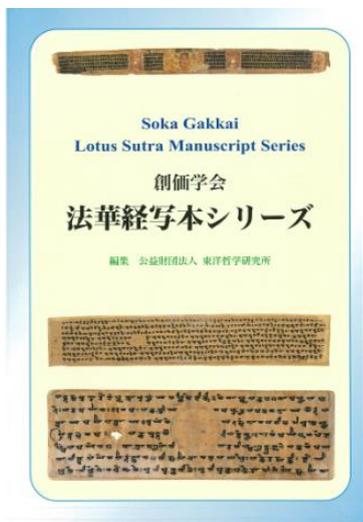


ルア院長(左から3人目)

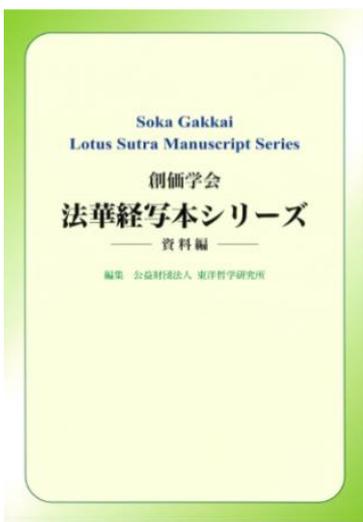
世界12カ国・地域目の開催となるアルゼンチンでの「法華経展」は2014年9月25日、首都・ブエノスアイレスのサルバドル大学で開催された。開幕式では、東洋哲学研究所の創業者であるSGI会長に「顕彰状」が贈られた。

法華經写本 シリーズ

東洋哲学研究所が創価学会の委嘱（後に共同事業）により推進してきた「法華經写本シリーズ」の概要を紹介するパンフレットとその資料編を発売した。冒頭に「シリーズ発刊の目的」「梵文法華經写本の3系統」「シリーズの学術成果」「今後の展望」を概説。各写本出版についての内容、背景、意義、出版形態などについての解説を収録している。ここでは、「シリーズ発刊の目的」と「法華經写本シリーズ」一覧を紹介する。



創価学会 法華經写本シリーズ
（非売品）



創価学会 法華經写本シリーズ
資料編（非売品）

発刊の目的

『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献するため

創価学会と東洋哲学研究所は、1997年以來、法華經写本を所蔵する世界の研究機関および研究者の協力を得て、「法華經写本シリーズ」の刊行を推進してきた。

これは、各国に保存されてきた貴重な法華經写本を鮮明なカラー写真で撮影した「写真版」と、写本の“読み”をローマ字化した「ローマ字版」を公刊し、世界の研究者に広く提供して『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献するためである。1997年から2014年にかけて16点を発刊してきた。

また、シリーズ発刊の契機の一つとして、研究所創立者である池田SGI会長に対して、世界の研究機関等から貴重な「法華經写本」の複製やマイクロフィルム等が寄せられてきたことがあげられる。

梵文法華經の校定本としては、これまで「ケルン・南條本」（1908-1912年）、「萩原・土田本」（1934-1935年）、「ダット本」（1953年）等の先駆的業績があったが、今日の学問的水準から見ると、より正確で信頼に足る校定本が望まれる。当シリーズは、そのための基本資料を提供するものである。

「法華經写本シリーズ」一覽

出土別	写本名	出土別	写本名
ネパール系	①ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) ——写真版	ネパール系	⑨大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) ——写真版
	②同 ローマ字版 1		⑩同 ローマ字版
	③同 ローマ字版 2		⑪インド・コルカタアジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 4079) ——ローマ字版
	④ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1682 および Add. 1683) ——写真版		⑫インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本 ——写真版
	⑤ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1684) ——ローマ字版		⑬旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡 ——写真版及びローマ字版
	⑥東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 414) ——ローマ字版		⑭カーダリク出土 梵文法華經写本断簡
	⑦英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 6) ——ローマ字版		⑮ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本 (SI P/5 他) (通称：ペトロフスキー本) ——写真版
	⑧パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 2) ——ローマ字版		⑯ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」 ——写真版 (鳩摩羅什訳対照)
		中央アジア系	
		西夏本	

国際学術交流

「法華経」のエッセンス——すべてを生かす



台湾・桃園での「法華経——平和と共生のメッセージ」展を記念するシンポジウムは8月16日、台湾 SGI の桃園文化会館で行われた。

ここでは、台北芸術大学の林保堯名誉教授、中国文化大学の陳清香教授とともに、東洋哲学研究所の松岡幹夫研究員が発表した。

『法華経』のエッセンス——すべてを生かすをテーマにした講演では、約2千年前に成立されたとされる法華経から、現代の私たちが貴重な哲学を学ぶことができるのではないかと指摘。法華経の「諸法実相」に言及し、現実がそのまま究極の真理であることを説くことなどを通して、それぞれの国や地域の現状を尊重し、漸進的に進んでいく重要性を訴えた。

日本宗教学会に「法華経写本シリーズ」のブースを開設



日本宗教学会第74回学術大会が9月4～6日、東京・八王子市の創価大学で開催された。

東洋哲学研究所は、研究成果公開事業の一環として、法華経写本シリーズの展示ブースを開設。研究・編纂を行ってきた成果として刊行した法華経写本の写真版・ローマ字版16点を展示した。また、同シリーズをまとめたパネルや概説本も紹介した。

出版物

東洋学術研究 第54巻 第1号 (通巻174号) 定価: 1,238円+税



主な内容

- 特集「地球文明への道」
○連続公開講演会より
「地球文明」の肖像——比較文明学の旅路から
… 吉澤五郎 (麗澤大学客員教授)
生命を基本にする社会
… 中村桂子 (JT 生命誌研究館館長)
宇宙から考える文明
… 松井孝典 (千葉工業大学惑星探査研究センター所長)
地球文明と生命価値経済システム
… 八巻節夫 (東洋大学名誉教授)
- 「社会と宗教」セミナーより
文明史の観点から見た21世紀の世界
… 大沼保昭 (明治大学特任教授)
- 公開講演会より
文明間対話における女性と青年
… ライハナ・アブドゥーラ (マラヤ大学人文学研究クラスタ副院長)
ルターと日蓮——世界の両端の宗教改革者
… ミヒヤエル・フォン・ブリュック (ミュンヘン大学元教授)

東洋学術研究 第54巻 第2号 (通巻175号) 定価: 1,238円+税



主な内容

- 特集 宗教間対話シリーズ「東方キリスト教との対話」
ヘシカズム論争の指し示すもの——グレゴリオス・パラマスと東方教会神学
… 大森正樹 (南山大学名誉教授)
偽ディオニュシオス・アレオパギテスについて … 今義博 (山梨大学名誉教授)
東方キリスト教における霊 … 土橋茂樹 (中央大学教授)
東方キリスト教における死生観 … 袴田玲 (日本学術振興会特別研究員)
ニカイアからカルケドンへ 古代末期の東方におけるキリスト論論争と教会政治史
… 中西恭子 (東京大学大学院人文社会系研究科研究員)
- シンポジウム: 仏教とイスラームの相互理解に向けて (第30回学術大会より)
- 各講演・セミナーより
西田・ホワイトヘッド・プリゴジンをつなぐもの——「生成」の見地より
… 伊東俊太郎 (国際比較文明学会終身名誉会長)
- 寄稿
地球尊重の信仰と人新世 … ラリー・ラズムセン (ユニオン神学校名誉教授)

The Journal of Oriental Studies vol. 25 定価：2,000 円+税



Main Topics

SPECIAL SERIES:

The Challenge of Global Transformation—Humanity and the Environment (2)

.....Ernest Ulrich von Weizsäcker and Daisaku Ikeda

Feature: Intercivilizational Dialogue—Toward the Mutual Understanding of Buddhism and Islam

From the Symposium in conjunction with the 30th Annual Conference of the IOP

Gender Equality, Islam and Law.....Raihanah Abdullah, Asadullah Ali, Siti Aminah Hamid

Gender Equality of Buddhist Thought in the Age of BuddhaToshie Kurihara

The Language of Lotus Sutra's Parable of Medicinal HerbsFaridah Noor Mohd Noor

The Language of Coexistence in Islamic Philosophy—The Emanation Theory in Al-Fārābī's The Excellent City—.....Tatsuya Yamazaki

Dialogue Between Islam and Buddhism in Medicine.....Christopher Choing-Meng Boey

From the Lectures related to Islam

Civilisational Approach to Economic Development: An Islamic Perspective

.....Nik Mustapha Hj Nik Hassan

Global Movement of Moderates or Wasatiyyah: A Commentary on an InitiativeMohamed Fauzi Yaacob

Contribution

Earth-Honoring Faith and the Anthropocene Larry Rasmussen

From Public Lectures

Luther and Nichiren—Reformers at Two Different Ends of the WorldMichael von Brück

Factor Five — Towards Global Sustainability through Doing Much More with Much Less.....Cheryl Desha

中国語版 (繁体字・簡体字) 『ガイドブック 法華経展—平和と共生のメッセージ』

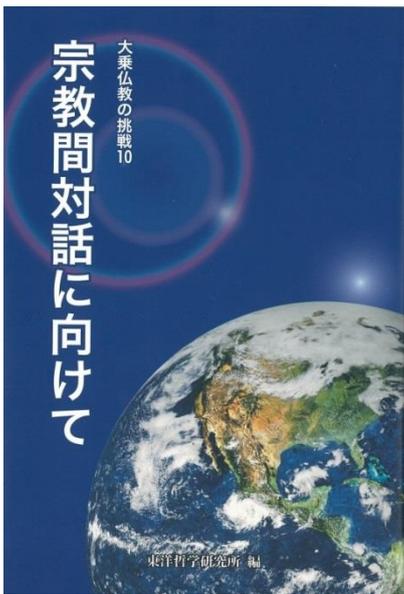


翻訳・編集 創価文教基金会 (台湾)

東洋哲学研究所が企画・制作する「法華経——平和と共生のメッセージ」展を解説した『ガイドブック 法華経展—平和と共生のメッセージ』の中国語 (繁体字・簡体字) 版が完成した。これは、日本語版ガイドブックをもとに、台湾の創価文教基金会が翻訳・編集を行ったもの。同書では、日本語版に準じて、法華経伝播の歴史、仏教の教えを後世に伝える多くの言語で翻訳された写本群の解説をはじめ、法華経写本シリーズや仏教芸術などをオールカラーで紹介。台北芸術大学の林保堯名誉教授による特別寄稿も収録されている。

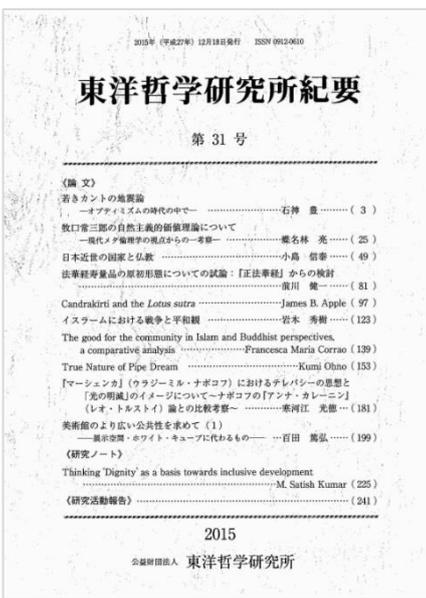
Publications

大乘仏教の挑戦 10 宗教間対話に向けて 定価：1,000円+税



『宗教間対話に向けて』は、仏教の立場から平和や環境・教育などの課題を考察する「大乘仏教の挑戦」シリーズ第10弾である。2006年に刊行が始まり、本巻で完結となる。東洋哲学研究所は、創立者・池田SGI会長の「SGIの日」記念提言等を受け、世界の学術・研究機関と文明間・宗教間対話を推進してきた。本書は、これまでの考察を活かしながら、研究員らが各自の専門的立場から執筆した論文を収録。大乘仏教はいかにして他宗教と語り合っていくか——人類が直面する諸問題に対し、各宗教が協力し合うための「対話」の在り方を示唆する。

東洋哲学研究所紀要 第31号 (非売品)



若きカントの地震論—オプティミズムの時代の中で—	… 石神豊
牧口常三郎の自然主義的価値理論について—現代メタ倫理学の視点からの一考察—	… 蝶名林亮
日本近世の国家と仏教	… 小島信泰
法華経寿量品の原初形態についての試論：『正法華経』からの検討	… 前川健一
Candrakīrti and Lotus Sutra	… James B. Apple
イスラームにおける戦争と平和観	… 岩木秀樹
The good for the community in Islam and Buddhist perspectives, a comparative analysis	… Francesca Maria Corrao
True Nature of Pipe Dream	… Kumi Ohno
『マーシェンカ』（ウラジーミル・ナボコフ）におけるテレバシーの思想と「光の明滅」のイメージについて—ナボコフの『アンナ・カレーニン』（レオ・トルストイ）論との比較考察—	… 寒河江光徳
美術館のより広い公共性を求めて（1）	… 百田篤弘
——展示空間・ホワイト・キューブに代わるもの——	… 百田篤弘
《研究ノート》	
Thinking 'Dignity' as a basis towards inclusive development	… M. Satish Kumar
《研究活動報告》	



公益財団法人 東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>





公益財団法人 東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY